

令和3年度第1回 習志野市子ども・子育て会議議事録

1 開催日時 令和3年6月16日(水) 午後5時00分～午後6時45分

2 開催場所 習志野市庁舎5階 委員会室

3 出席者

【会長】 淑徳大学総合福祉学部 稲垣 美加子

【副会長】 千葉経済大学短期大学部 上村 麻郁

【委員】 国際医療福祉大学大学院 鈴木 茜

市立こども園 池上 恭代

私立幼稚園・認定こども園協会(事業者代表) 飯生 和美

習志野市保育所・こども園保護者会連絡会 横澤 哲也

習志野市PTA連絡協議会 佐々木 秀一

私立幼稚園・認定こども園協会(保護者代表) 前田 ちはる

公募委員 栢 まゆみ

習志野市小中学校長会 足立 俊子

習志野市民生委員・児童委員協議会 湯下 由香里

習志野商工会議所 飯島 松樹

〈欠席委員3名〉

【職員】 こども部 部長 小平 修、次長 根本 勇一、副技監 江口 浩雄

こども保育課 課長 篠宮 淳一、主幹 永田 容子、主幹 家弓 樹也、主幹 鈴木 誠

係長 石川 由美、係長 平岡 真由美

子育て支援課 課長 相澤 慶一

児童育成課 課長 村山 貴弘、主幹 上野 智子

ひまわり発達相談センター 所長 内村 幸輔、主任指導員 清水 郁乃

健康支援課 主幹 児玉 紀久子

社会教育課 課長 藤原 友哉、係長 山田 展子

【事務局】 こども政策課 課長 齊藤洋介、主幹 新井 理香

係長 三代川 昌弘、係長 松本 大輔

副主査 清水 隆之、副主査 鈴木 真理子

【傍聴人】 4人

4 議題

第1 副会長の選出

第2 協議

(1) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の令和元年度実績評価について(協議)

(2) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の令和2年度実績評価について(協議)

第3 その他(事務連絡等)

5 会議資料

- 資料 1 習志野市子ども・子育て会議委員名簿
- 資料 2 令和元年度実績の報告への委員からの意見等と担当課からの回答
- 資料 3 令和2年度教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況 概要版
- 資料 4 令和2年度教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の実施状況
- 資料 5 習志野市子ども・子育て支援事業計画実績表【令和2年度】
- 資料 6 習志野市子ども・子育て支援事業計画に定めた重点事業に係る評価指標の状況

6 議事内容

開会

稲垣美加子会長より、会議の開会が宣言された。出席委員は 12 名である旨の報告と、会議は原則公開であり、随時傍聴希望者の入室がある旨の連絡があった。

第 1 副会長の選出

【稲垣 美加子会長】

事務局より説明をお願いします。

【こども政策課長 齊藤】

副会長であった臺委員が辞職されたことに伴い、現在、副会長が不在となっている。「習志野市子ども・子育て会議条例」第 6 条により、委員の皆様の中で副会長を選出するよう、お願いします。

【稲垣 美加子会長】

まず、互選の方法について、何か意見はあるか。

【栢 まゆみ委員】

会長に一任したいと思うがいかがか。

〈異議なしとの声あり〉

【稲垣 美加子会長】

異議なしということで、会長である私より選任させていただく。副会長は上村麻郁委員にお願いしたい。よって副会長は、上村麻郁委員に決した。

【上村 麻郁副会長】

副会長就任の挨拶。

第 2 協議

(1) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の令和元年度実績評価について（協議）

【こども政策課長 齊藤】

資料 2 に基づき、令和元年度実績評価について報告。

【稲垣 美加子会長】

今回の会議はコロナ禍での開催であり、また保育を利用している子どももいるので端的に議論したいと思う。関連するのでこのまま令和2年度の実績評価についても報告いただき、そのあと令和元年度分と2年度分併せて意見等をいただきたいと思う。進行へのご協力をお願いします。

〈委員の了承を得てこのまま次の議題に進む〉

(2) 習志野市子ども・子育て支援事業計画の令和2年度実績評価について（協議）

【こども政策課長 齊藤】

資料3から6に基づき、令和2年度実績評価について報告。

また、資料5の108項目の実績表について、来年度以降は重点項目に関するもののみの作成にすることを検討しており、この点についても協議をいただきたい旨の話があった。

【稲垣 美加子会長】

令和元年度実績と関連付けてでも構わない。何か意見をお願いします。

【飯生 和美委員】

年少で言葉が出ないため、ひまわり発達相談センターへの通所を希望しているが、お母さんが双子を妊娠中のため連れていけないという子がいる。園としても気にかけている。

【稲垣 美加子会長】

サービス利用の難しさを感じる。複数の子がいたり傷病がある場合など、色々なケースがある。サービスがあっても移動の保障がないと利用できない。専門的なサービスがあっても当事者が動きたくても動けない場合があるので、当事者から動き出さなくてもいいような“つなぐサービス”が必要である。

【前田 ちはる委員】

子育てをしている中で、放課後子ども教室については、やっと実施となり嬉しく思っている。学童に入れない子、預け先がない子にとって安心、安全な場所になっている。ただ、まだ放課後子ども教室ができていない地域に関しては待っている状態。一番希望したいのは長期休暇中で、子どもの行き場がないときに、空いている教室や体育館が安心・安全に遊べる場所になってほしい。放課後児童会も待機児童がまだいるということなので、例えば夏休みだけ学校にスペースを作り、スタッフが確保できれば、ずっと家で待たなければいけない子どもの解消にもなると思う。学校がある時は夕方から夜までの間だが、長期休暇の時には親が1日いない家庭も多いと思うので、放課後子ども教室や学童の利用ができない地域でも、子どもの行き場がもっと早くできるといいなと思っている。

【足立 俊子委員】

子どもたちが安心安全で過ごせる場所を確保するのは、本当に大切なことで、関係する部署の方は尽力いただいていると思っている。小学校の学童保育は、このコロナ禍でも、連携を深め、学校が休業中もどのようにお子さんを安全に預かっていくかということをお互いに補いあってやってきたが、放課後子ども教室についても、学校の施設の運用の仕方など様々な協議をして、子どもた

ちのために、よりよいことがより早く実現できるといいなと思っている。

【佐々木 秀一委員】

2点ある。1点目は、資料3の「2. 保育」の「令和2年度の主な実施内容」というところで、保育定員を122名拡大したということだが、前の年は、令和2年度は170人拡大を予定していた。実績についても令和元年度は272名拡大しているが減少していることになる。数字が減少している要因や、どのように考えているか知らせてほしい。

2点目は、先ほど齊藤課長の話の中で、来年度以降は重点事業のみを報告するということがあったが、どういったことなのかもう少しお知らせいただきたい。

もう一つ要望として、資料6について、%の他に分母と分子の記載があると、ある程度の概略もわかってよいと思った。

【稲垣 美加子会長】

この資料6の%というのは具体的な数字だが、進行管理の効果測定に使う場合は必ず数値を示して、どの母数に対してのどれだけの実数値で結果何%と表さないと、例えば50%の場合、100件のうちの50件も、2件のうちの1件でも50%になってしまう。100件と2件では全然ボリュームが違う。民主主義の原則で少数の要望というのをないがしろにはいけないので、やはり少数を取り上げたときには少数を取り上げる根拠を示すことが大事なのだろうと思う。

重点事業については後程議論したいと思うので、少し置かせていただいて、回答をお願いします。

【こども政策課長 齊藤】

1点目についてお答えする。細かいところまでは分析ができていないが、前年度に多く整備した部分については、次の年減ってしまうという影響がある。計画に定めた部分については予定通り行っている状況である。

【佐々木 秀一委員】

確かにその通りだが、令和元年度の実績があったうえで令和2年度の予定として170としていて、結果が122である。そこは問題があると思う。調査研究していただくことを要望する。

【池上 恭代委員】

施設がどこまで受け入れられるかということについては、教育・保育、また子どもの安全を重視しながらこども保育課と協議をしている。できるだけたくさんのお子さまに利用していただきたいという希望は強くあり、検討していくが、受け入れ側としては、運営面、施設面、安全面などの部分で、提示されたものの通りにはいかないときもある。今は働く方が多いので、短時間児の利用よりも、長時間児の利用の方が多いというのが実情だが、施設面、安全面で、ここまでと区切らなくてはならない部分がある。これからまたこども園ができることで少し解消されると思うし、私立の誘致や、小規模保育事業所といった多角的に受け入れる方法があると思う。谷津の方で新しく施設ができてきているという情報もあり、努力していると思う。

【稲垣 美加子会長】

現場の意見はすごく大事だと思う。我々は、待っている方や使えない方がいたらキャパを広げたいと思うが、ここで大問題になってくるのがその場の質とそこで働く人の質をどう確保して、子どもにとって良いサービスにしていくのか、子どもたちの安全安心を保障した上でサービスをどう提供していくかという時、やはり拙速であってはならないと思う。

ぜひその点を今後もよく情報交換し知恵を出し合って、本当に子どもたちにとって良質なものを提供していくことができるように、例えばここを作っている間どういう代替的なサービスを使っていたら、本当に困る人たちがこぼれることのない場が提供できるかということなど、地域で子どもたちを守るというアイデアをぜひ皆さんに持っていただけたらなとも思う。

【横澤 哲也委員】

資料6の保育所等の待機児童について、放課後児童会も含め、令和6年の4月1日なり5月1日なりに、待機児童ゼロという目標を掲げている。今から3年後になるが、その3年後までのロードマップが作られていて、こうだから4月1日及び5月1日にはもうゼロになるといえるものなのか、それとも、あくまで目標として、3年後ぐらいにはゼロにしましょうという感じで考えているのかによって、後々変わってくると思う。そのあたりはどうか。

【こども政策課長 齊藤】

令和2年度から始まっているこの計画は令和6年度が最終年度になる。保育所の待機児童対策を行っていくにあたり、保育定員の拡大として、1つは公立施設の老朽化に伴う私立化がある。新しい施設に建て替えて私立で運営してもらい、その際に保育定員を拡大する予定で、令和6年4月1日オープンに向けて、現在準備をしているところである。もう1つは、こども園についてである。7つの中学校区ごとに1こども園という構想を掲げる中で、現在5つの公立のこども園を運営しているが、残りの第一中学校区と第五中学校区について、令和6年に、向山幼稚園に保育機能を加えた向山こども園をオープンするため今取り組んでいるところである。よって令和6年4月1日はゼロという目標を掲げている。

【児童育成課長 村山】

放課後児童会においては、待機児童の解消のため、この計画上で2点取り組みを挙げている。1点目は、放課後児童会の委託化の実施である。児童会を新たに開設するにあたっては、人の確保が必要であるため委託化を進めるということ。もう1点は施設の整備で、今年度は鷺沼第三児童会の整備、来年度は谷津第五児童会を整備する予定。この2点を併せて行っていくことにより、待機児童ゼロを目標値として掲げているところである。

【稲垣 美加子会長】

我々もこの計画を立てるにあたり、その都度了解している。行政だけに任せるのではなく、これに関してともに責任を負っているということにもなる。それぞれの委員一人ひとりの意見いただくことも大事だが、それぞれの置かれている環境の中で、皆さんの周りにいる方たちの仲間の声を代弁し、色々な意見をいただけたらと思う。

【飯島 松樹委員】

気になるのが資料6の子どもの貧困対策のところの学習支援登録者生徒の高校進学率。100%だが、分母がどのくらいあったのか。最近6人に1人、もしくは7人に1人というように、日本の貧困率が、先進国の中ではかなり高いと言われている。昨今のコロナの影響によって経済界はかなり疲弊しており、特にシングルマザーなどは、半分ぐらいが貧困層になってしまうという中で、今実態として困窮している家庭、生徒が増えているのかどうか、100%だけではちょっと読み取れない部分をもう少し詳しく教えていただきたい。

【稲垣 美加子会長】

地域の実情など教えていただけたらと思う。

【湯下 由香里委員】

困っている家庭は身近でも増えているような気がする。コロナ禍で利用が減ったり利用できなくなっている事業がいくつかある。子育て短期支援事業（ショートステイ）とか病児保育事業とか。子育て中のお母さんや子どもたちも結構ストレスがたまって大変だと思うところに、これが減ってしまって本当に大丈夫か心配なところ。またお母さんがイライラしているというような困っているという声を受け入れるところがあるのか気になる。

【子育て支援課長 相澤】

まず病児・病後児保育については、確定診断がついていないと受け入れられないという状況があるのと、反対に、家庭の方で今病院に通うことを控えたり、また、家で仕事をしていることも増えてきた関係もあり、病児・病後児保育は今そういう状況になっている。今年度も今のところはあまり変わっていない状況である。孤立している家庭に対しては、子ども家庭総合支援係で、民生委員などと連絡を取って訪問などを行っている。アウトリーチ的な支援も取り入れている。

虐待の件数も増えている。家にいてお母さんもお父さんもイライラしている状況が見受けられるので、丹念に行っていこうと考えている。

【こども政策課長 齊藤】

飯島委員から質問のあった学習支援の部分だが、資料5の、78ページをご覧いただきたい。生活相談課が本日会議に出席していないので詳細は答えられないが、こちらに大体の概要について記入している。中段のところに登録の中学生60名とあり、このうち中学3年生が何人いたのか把握できないが、こうした事業内容の通り実施したというところである。

【飯島 松樹委員】

この母数のうち中学3年生の数字が知りたい。また、例えば、公立と私立では費用負担が変わってくると思うので、そういった部分もどういう割合だったのかを知りたかったところである。

【こども政策課長齊藤】

担当に確認し、もしデータがあればまとめて後日皆様にメール等で送付させていただきたい。

【稲垣 美加子会長】

もう少し本質的なところで言えば、こうした支援にあたっては、個別のケース事情をどうきめ細やかにサポートしたのかということが大事なのだと思う。そうした目を持っているのか、観点を持ったこうした事業を実施しているのかということが大事になってくると思う。

評価指標について、単純に数量を上げていけばいいことではない。数にする時というのはどうしても項目に対して“どちらかといえばこっち”と合わせていかなないと出てこないところがあるが、子ども一人ひとりの人生、課題というのは、寄せてしまっても何とかなるものではない。子どもの喜び、生きがいなどに沿った形の事業に本当に質としてなっているかということが、本当の意味での問いであり、ただ単に数を答えるのではなくて、どんな考え方を持ってこれらの事業を行っているのか、利用している子どもたちの特性に応じて、どのような工夫をしているのかということについて、今後は報告されることが望ましい。

【栢 まゆみ委員】

多岐に渡って子どもたちや親をサポートしてくれているのは、行政でなければできないことなので、一つでも有効なものが、皆さんに伝わればいいなと思っている。

高校の進学率100%を達成したとしても、本当はA高校に入りたかったけれども、B高校で我慢し、その子が通い切れたのかとか、そこで楽しい学校生活を送れたのかといった、この100%の後、どうだったのかなっていうことに今思いを馳せていた。

そして1点、資料6の、家庭力のところの一時保育利用者の満足度について目標が80%で、68%達成というところだが、満足度というのは、長さなのか、子どもの混み具合なのか、先生の数なのか、どのように計って、それがなぜ、68%で目標に届かなかったという判断になるのかというところが不明である。

【こども保育課長 篠宮】

一時保育については、電話で予約をするときに、電話がなかなか繋がらないというのが一番満足度に関わる部分としてある。令和2年度の現状値は68%であるが、令和3年度からは、予約日を非定型が1日、リフレッシュが2日と分けることによって、その混雑状況を緩和している。待機児童数は、少しずつ減ってきており、昨年度はコロナの影響もあったが、一時保育を利用する人は少しずつ減っている。また、空き状況をホームページに載せることによって、利用しやすくしているので、令和3年度以降は満足度が少しずつ上がってくるのではないかと考えている。

【池上 恭代委員】

一時保育の件だが、この3月からの予約日の変更について、事前に皆さんにお知らせをした。混乱は少なかったと思う。以前は、3月の予約というのが混雑しており、3日間予約を入れたいだけなのになかなか繋がらないという実情があったが、そこが軽減されて、予約が取りやすくなったという声は実際にある。次第に定着してきている実感はある。

【鈴木 茜委員】

今コロナ禍で、悩まれている保護者の方も多と思う。私は保健師の養成校の教員で、うちの大学の学生は今23区で実習中で、今日も実習巡回で保健師の方々に話を聞いてきたところだが、この1年間、集団の健康教育など人を集めることができないなかでの実績などを伺いたい。

【上村 麻郁副会長】

自分が住んでいるところ、習志野市、委員やらせていただいている他の市、どこの市も多分抱えている問題は同じというのは実感として思った。ただ取り組みは行政の大きさ、人口など様々なことがあると思うので、これまでやってきたことをもとに取り組んでいくのだろうと思った。

2点気になったことがある。1点目は、保育所の待機や児童会等もそうだが、民営化という話が出てきたときに、量の拡充はできても質の担保をどうするのかということである。

私は保育士の養成校にいて、まさに今実習中だが、児童福祉施設全般、障がいも含めて、保育者の育成と定着が課題になっている。その中で、量の拡充をして保育士が確保できたら、その先どうするのかというところまで考えながらできるかということがあると思う。18歳人口も減っているの、当然保育士の必要人数も先細り、私たちも売り手市場でなくなってきた時に、たくさん採用した保育士たちをどうしていくのか。他市の話だが、運営会社の中には、スパッと首を切ってしまうところもある。そういうことは避けていただきたいので、多角的に物をとらえて考えていただける

といいのかなと思う。

もう1点が、私もショートステイが利用できないというところはすごく心配をされていて、アウトリーチ的に代替の何かをお考えいただいているということなので、ぜひそこはできることをやっていただきたいと思った。

【稲垣 美加子会長】

全体の意見を集約すると、やはり通常の計画の進行管理と異なってくるところが、このコロナ禍という変数をどのようにカウントしていくのかということ。また私もソーシャルワーカーの養成校にいるが、実はさっき飯島委員から提起のあった経済問題が学生を襲ってしまっていて、アルバイトができないので就学の継続が厳しくなっていたり、大学を選ぶときに、通学の費用のかからないところを選ばざるを得なかったり、学費が払えなくて進学を断念する学生も出ている。

このような状況の中で、皆さんもすごく大変だと思うが、感染症のリスク対策をしながらどう人材を育てていくのか。サービスを維持していくのかということでは本当にみんなで知恵を絞っていかなければいけない。これは行政の皆さんだけではなくて、この会議に参画をしている皆さんの協力と意見、周りの方達の協力、インフォームドコンセントをいただきながら、皆で意識する必要がある。今のサービスを維持するために頑張っているだけでは、数年後に多分人材がいなくなるということ、今2人の問題提起から私もひしひしと感じた。

大学、専門学校等は去年1年間で教育の空白期間になってしまっているところがあり、今年は1年で2年分の教育をして何とか現場に出る人たちの質を落とさないようにしようと必死で頑張っているが、実習が大変厳しい。

多分それは、受け入れている現場も同じだと思うし、どこの誰だかわからない人が来たら保護者の方たちはとても不安だと思うが、皆で、今の子どもたちと未来の子どもたちのために、今の若い人たちの育むということに協力をいただきたいと思うし、行政としてはこの感染の状況下でどう対策を講じたのかということは、やはりみんな丁寧な記録を取って、今後のリスク対策に生かしていただきたいと思う。

佐々木委員から先ほど提起のあった重点事業について等は、1回休憩を取ってから皆さんの意見をいただきたいと思う。それでは10分間休憩を取らせていただく。

<休憩>

【稲垣 美加子会長】

先ほど佐々木委員から質問があったが大事な点だと思うので、確認をさせていただく。次年度、次回以降というべきか、こうした議論を、重点事業を中心という言及があったと思うが、もう少し詳しくその点について説明いただきたい。

【こども政策課長 齊藤】

具体的には資料6の部分。要は数値目標等を設定した事業については、すべて資料5の実績表を作成するが、これまで長らく実施してきている事業等については、資料5の形を取らず、あくまでこの資料6に沿った事業の実績表のみを作成するような形で、会議の方を進めていくのはどうかという提案である。

【佐々木 秀一委員】

そうすると108事業から5-6事業に絞るというイメージに近いと思うが、ただ既存のものはそのまま残しておいて発表の場としては資料6のように、ダイジェスト版を作るということによろしいか。つまり資料5は今まで通り作成されるのか。

【こども政策課長 齊藤】

資料6に載っている事業のみ、資料5の実績表を作成するというはいかがかという提案である。

【佐々木 秀一委員】

それはちょっと乱暴だと思う。教育委員会でもこれまでのような形でやっていると思うので、それについては私個人としては賛成しかねるところである。

【栢 まゆみ委員】

私も佐々木委員と同意見で、大幅に減らしてしまうのは、いかがなものかと思う。私自身、一言一句全部読んでいるかという胸を張れないが、ただ、やはりこういった事業もしているのだということや、こういった事業が今回は実施できなかったといったことも、今回大変勉強になったので、これは、目にする機会をいただきたい。減らしたほうがいい利点があれば、そこを聞かせていただければと思う。

【飯島 松樹委員】

単純に資料作成が大変なのだと思う。正直私も全ページ見てはいない。職員の負担を減らしたいからという理由であれば、趣旨が違う気がする。委員は色々な立場から来ているので、多分目のつくところがそれぞれ違うと思う。今のこの内容をもう少しダイジェスト版にするというように、一つ一つの内容を削るのは結構だと思うが、項目自体を大幅減というのは最初の趣旨と違ってしまおうと思う。

【前田 ちはる委員】

資料2で、かなりたくさん質問させていただき、たくさん回答いただいた。この資料5を熟読したから疑問に思ったり、提案させていただいたりできた。資料6のような簡単な表だと気づけなかったことがこの資料5を読めば一目瞭然でわかる場所があったので、残していただきたいと感じる。

【足立 俊子委員】

これを減らそうと思ったのには理由もあったかと思うが、今皆さんがこれだけ必要だっていう、とてもいい資料だっていうふうにおっしゃっているので、検討いただければと思う。

【稲垣 美加子会長】

多分2つのことを考える必要があると思う。1つ目は、これは基礎資料なので、大変だと思うが担当課の皆さんは毎年これを作り、比較することによって、人事異動があっても新しく来た方は前の資料を見れば、その経過がわかる。そういう意味ではつなぎの資料になるのだろうと思うので基礎資料として大事にさせていただく。

ただこの会議はそう頻繁に開くことができるわけではないし、また保育を利用している子どもたちの負担も考えると2時間という時間の中で進行管理をしなければならず、効率的な議論をしなければいけない。効率的な議論を可能にするために話し合いのテーマをどう焦点化するのかというのは、ちょっと論点が違うところだと思う。

よって基礎資料は、皆さんがおっしゃるように作っていただき、この議論の場ではなく郵送などによりそれぞれの意見をいただく。そしてこの場で、特に何について議論をするのかということについては、その重点項目で多分妥当なのだと思う。

そして今後検討していくことが必要だと思うのは、こうしたいろいろな事に関して事務局から提案をいただいた時に、一緒に考える姿勢である。よって、先ほどのスケールも、どうしたらいいのかということをやはり皆で考えていくことも必要かなと思う。スケールが必要なのだと言っているだけではなくて、例えばテーマ別にこの委員をさらに小さなワーキンググループにして、事務局の方たちと一緒に検討してそれを共同提案してこの場で考えるとか、あるいは重点項目も前年度の終わりに、次年度はどこを重点項目にするか、事務局から提案いただき、この場で皆で議論し、ここでいきましょうということを決めていくとか。行政の皆さんが本当にミッションとしてやらなければいけないのはこうした紙の資料を作るのではなくて、ナショナルミニマム、行政として市民の暮らしにどう責任を負うのかということに、実力を発揮していただくこと。省力化できることは省力化していくことが必要だし、こうした会議の運営として、進行を合理化していく手法というのは検討すべきだと思うが、やはり、資料を絞ってしまうということは私もいがかかなという気がする。ただ資料の作り方は、もう少し色々な方のアイデアをいただいて、職員の方の負担を軽減していく。必要な作業はするけれども、合理的に作業する工夫というのは必要だろうと思う。そしてこの限られた2時間というところでどう議論をするのかということころは、皆さんの意見を聞きながら、どこに皆さんの知恵をいただきたいのか。今回のように事前に資料をいただいて、それに対して各委員が個々の立場から質問をしていただくことと、この会議の場で議論すべきことを分けていただくといいかなと、今皆さんの意見を聞いていて思った。

全体として、協議事項の1と2になるが、令和元年の実績評価、令和2年度の実績評価、それぞれについて、今後皆さんからの要望をいただきながら、取りまとめるということによろしいか。

<異議なし>

【稲垣 美加子会長】

次年度以降のこの重点事業についての進め方については、皆さんの意見を参考にした上で、ぜひ検討いただければと思う。

第3 その他（事務連絡等）

【こども政策課長 齊藤】

現在の委員の皆様は、今月末であり来月から新たな委員の任期となる。今回の会議が最後となる委員においては、これまで様々な意見をいただき感謝する。

<今期をもって退任する委員11名のうち出席者8名から挨拶があった>

【稲垣 美加子会長】

以上をもって令和3年度第1回習志野市子ども・子育て会議を閉会する。